

県、高知大学医学部などは22日、室戸海洋深層水の機能性に関する共同研究の成果を発表した。飲料水製品を長期間飲むことで腸内環境が向上し、便秘などの改善がみられた。取水地や製造法などで商品ごとに効果が異なり、「製造の仕方によって高付加価値の製品開発につながる可能性がある」としている。(三浦真裕)

深層水で腸内環境改善

両者と室戸市、深層水関連商品の製造企業でつくる「高知海洋深層水企業クラブ」(40社)の共同研究。2014〜16年度にかけて健康増進効果を検証してきた。

腸内環境に関する研究は、室戸市民ら95人を、室戸海洋深層水から製造した飲料水と、一般的なミネラルウォーターを飲む二つのグループに分け、毎日1リットルずつ3カ月間飲んだ。

両グループの便や尿のデータを比較すると、深層水を飲んだ層はミネラルウォーターの層より、腸内環境を改善する「短鎖脂肪酸」の量が23%多く、抗酸化作用などの効果が報告されている「エクオール」(イソフラボン)は1・6倍に増えていた。深層水に含まれる一部のミネラルが細菌などのエネルギー源になることで腸内が活性化したと考え

県、高知大研究 商品で効果に差も

られるという。

また、深層水飲料21製品に含まれるミネラル量を分析。取水地のほか、飲料への加工でミネラル成分に大きな違いがでることが確認された。動物実験でふんを調べたところ、免疫の指標となる物質の濃度に差があり、人体での効果にも違いがあると考えられる。

研究成果について企業クラブの竹中幸市会長(ダイドー・タケナカビバレッジ社長)は「これまでの研究で深層水の安心安全は一定評価されてきたが、裏付けができた。これを機に深層水産業を発展させ、工場の増設や雇用拡大につなげたい」としている。

卵巣がん患者を対象に免疫力的変化も調べたが、調査数が少なく研究を続ける方針。